

震災の犠牲者を追悼

3.11追悼夢灯り

黒沢尻22区有志の会による3.11追悼夢灯りは11日、常盤台てんぼう公園で行われました。これは東日本大震災の犠牲者を追悼するもので、献花台や灯籠を設置。市内に避難している被災者にも呼び掛け100人を超す人が集まりました。灯籠は手作りで250個を準備。降り積もった雪の上に並べられ鎮魂の明りを灯しました。

震災で大槌町から市内へ避難してきた阿部美雪さん(常盤台)は「地域の皆さんがこういう機会をつくってくれてありがたい」と話していました。

灯籠を燈し、犠牲者への黙とうを行う参加者の皆さん



出演者は初めての試みとなるミュージカルで観客を魅了しました

ミュージカルで魅了

北上市民劇場「昔話による喜劇がんとり」

北上市民劇場「昔話による喜劇がんとり」は2月22日・23日、さくらホールで開催されました。同劇場は(一財)北上市文化創造と北上市民劇場を盛り上げる会やっぺしが主催。出演・スタッフは市民の公募によるもので、今年は「花咲爺さん」のもとになる昔話「がんとり」を行いました。同劇場では毎年、新しい取り組みを行っており今回、初めてミュージカル調の演出に挑戦。参加者は3カ月にわたる稽古を行い、多くの観客を歌や踊りで魅了しました。

いわて国体をダンスでPR

いわて国体ダンスキャラバン

希望郷いわて国体・希望郷いわて大会ダンスキャラバンは2月25日、江釣子保育園で行われました。

このイベントは同国体・同大会をPRするために県内各地でキャラバン隊がダンスを指導するもの。同園の4歳児20人が参加し同隊の指導でダンスの練習を行いました。会場にはわんこきょうだいのそばっちも訪れ、園児たちは練習の成果をそばっちに披露。高橋萌音ちゃんは「そばっちが大きくてびっくりした。みんなで踊って楽しかった」と笑顔で話していました。

ダンスの練習後、そばっちと記念撮影を行う園児の皆さん



式典では新築を祝い長清水山伏神楽が奉納されました

自治宝くじ助成で公民館新築

長沼一区自治公民館新築落成式

長沼一区自治公民館新築落成式は16日、同公民館で行われました。これは(財)自治総合センターの宝くじ助成(コミュニティセンター助成事業)を活用し整備したもので、式典には地域住民や来賓、約120人が参加。神楽の奉納や設計業者や施工業者への感謝状の贈呈などが行われました。

同公民館建設委員長の武田孝男さんは式典のあいさつで「多くの人の協力でこのような施設ができうれしく思う。末永く使っていきたい」と話していました。

国際レベルの技の競演

ASIA OPEN 2014

ASIA OPEN 2014は15日・16日、夏油高原スキー場で開催されました。同大会はスロープスタイルという冬季オリンピックで新種目となったスキー・スノーボード競技で斜面に設けられたジャンプ台や障害物を滑り、技の難易度などを競います。大会には海外からの招待選手4人を含め、25人が参加。華麗な技の競演に観客からは歓声が上がりました。大会を見た里村孝司さん(青森県)は「本格的な大会を見るのは初めて。近くで見ることができて楽しめる」と話していました。

障害物のレールをバランスよく滑り降りる参加選手



倒壊家屋に下敷きになった人を救助する訓練を行う消防団

震災の教訓を忘れない 災害防御訓練

春季災害防御訓練は2日、相去地区内・相去地区交流センター一帯で行われました。同訓練は平成26年春季全国火災予防運動として行われたもので、消防団34人と地域住民150人が参加。倒壊家屋からの救助訓練や応急救護訓練、初期消火訓練など消防団と地域住民が連携を取りながら熱の入った訓練を行いました。

救助訓練に参加した千葉幸太君(南中2年)は「担架は実際持ってみると重かった。AEDも思ったより簡単に操作ができた」と訓練が役に立った様子でした。

雪景色を楽しみながら

夏油高原スノーシューハイキング

夏油高原スノーシューハイキングは2月23日、夏油高原スキー場周辺で開催されました。これは夏油高原インタープリターの会主催で毎年行われているもので、19人が参加。同会副会長の及川憲一さんを先頭に、第一ゴンドラ山頂駅から横岳、兎森山を冬ならではの雪景色を楽しみながらスノーシューで歩きました。

参加した照井善則さん(町分)は「天気が良く、歩いた距離もちょうど良くて楽しめた。こういうイベントを定期的に開催してほしい」と話していました。

夏油三山について及川副会長の説明を受ける参加者の皆さん



展示されている絵日記のパネルに見入る来場者

絵日記で振り返る

おもかけ復元師の震災絵日記パネル展

復元納棺師の笹原留似子さん(上江釣子)によるおもかけ復元師の震災絵日記パネル展は11日・12日、さくらホールで開催されました。同展は東日本大震災で亡くなった遺体を復元し、納棺するボランティアを行った笹原さんが当時の絵日記をパネルにしたもの。内陸に避難してきた被災者も震災を考える機会がほしいと相談され、今回の展示に至りました。

笹原さんは展示を通じ「一緒に考えたり、感じたりしてもらおうきっかけになれば」と話していました。